

平成 28 年度研究プロジェクト研究活動報告

研究種別	■自主研究 14	公益目的事業 19
主査名	青木 亮 ・ 東京経済大学経営学部 教授	
研究テーマ	観光地への公共交通アクセスの変遷と役割、効果に関する調査研究	
研究の目的： <p>2014(平成 26)年 6 月、「富岡製糸場と絹産業遺産群」が世界文化遺産に登録された。これに伴い、製糸場周辺の観光地や県内の有名温泉地を多くの観光客が訪れるようになったものの回遊性に乏しく、世界遺産登録に伴う経済効果を他地域へ波及させていくことが課題になっている。要因のひとつは、群馬県の交通環境、とりわけ公共交通機関による移動が不便な点にあると考える。県内の交通環境を概観すると、特に二次交通としての路線バスは、生活路線としての色彩が強く、観光客の移動や周遊に十分な配慮がなされていない。地方における路線バスの縮小や交通弱者対策が課題となる中で、従来の研究は自治体による住民サービスやバス利用の活性化、生活路線維持などの観点から論じられる傾向にある。一方、観光と交通に関する研究は、観光需要や観光行動を計量分析した研究や、政策的な視点から論じるものが多い。本研究では、交通事業者による観光開発や、観光地への足として開設されたバス路線の盛衰過程と分析するとともに、地域交通と観光業の関わり、影響、効果を明らかにする。あわせて全国の観光循環バスなどユニークな公共交通の事例を調査し、今後の観光業と地域公共交通の関係について政策提言を行うことを目的とする。</p>		
研究の経過 (4 月～9 月)： <p>6 月 3 日 (金) に第 1 回の研究会を開催し、群馬県における公共交通、バス交通の現状について報告を受けた他、本年度の研究テーマの概要説明や、今後の研究の進め方についてメンバー間で議論を行った。第 1 回研究会をもとに、計画を一部修正の上、2016 年 7 月 28 日(木)・29 日(金)・30 日(土)の 3 日間、岩手県の平泉町役場観光商工課と同県釜石市産業振興部観光交流課を訪問し、世界遺産登録施設を中心に、観光地へのアクセスの実態や現状を調査・視察した。同調査は、自家用車が観光地への交通手段として主役を担い、既に路線バスの多くが廃止されている群馬県(富岡製糸場と絹産業遺産群)の事例と比較することが目的である。また、2016 年 10 月 21 日(金)には、反射炉への路線バスが数年前に廃止され、現在は土日を中心に「観光周遊型葦山反射炉循環バス」が運行されている静岡県伊豆の国市・葦山反射炉および伊豆の国市役所を訪問し、世界遺産登録施設を中心に、観光地へのアクセスの実態や現状を調査・視察した。</p>		
下期へ向けて (課題等)： <p>11 月 11 日 (金) に第 2 回研究会の開催を予定している。第 2 回研究会では、夏休みおよび秋に行われた現地調査結果の報告と議論を通じて、観光地への公共交通アクセスについて研究の深化を図る予定である。また当日は、外部講師より秋川・奥多摩地域における公共交通と観光輸送の関係についての報告もいただく予定である。今後は、現地調査等の結果をもとに、フォローアップや関連調査を進め、報告書取りまとめに向けて研究を進めていく。</p>		
研究メンバー (敬称略)： <p>青木亮 (主査・東京経済大学) 寺田一薫 (東京海洋大学) 中村文彦 (横浜国立大学) 湧口清隆 (相模女子大学) 大井尚司 (大分大学) 大島登志彦 (高崎経済大学) 加藤博和 (米子工業高等専門学校) 酒井裕規 (神戸大学) 須田昌弥 (青山学院大学) 高橋愛典 (近畿大学) 寺田英子 (広島市立大学) 松崎朱芳 (運輸調査局) 石関正典 (高崎経済大学)</p>		